



パートナーシップ宣誓

～性の多様性を認め合い、たくさんの

県では、県民の皆さんが性の多様性について正しい理解と認識を深め、性的指向や性自認にかかわらず、人生を共にしたい人と安心して生活できる



性の多様性とは？

LGBTという言葉聞いたことはありますか？

レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)の頭文字をまとめたもので、性的少数者の総称の一つです。他にも、アセクシュアル(他者に性愛感情を抱かない人)やクエスチョニング(自分の性的指向や性自認が決められない、またはあえて決めない人)など、さまざまな人がいます。

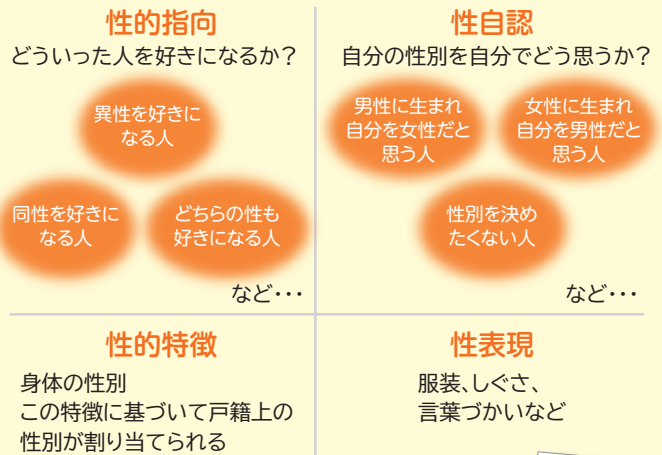
各種調査(※)によると、人口の3～10%が性的少数者と考えられます。しかし、周囲の無理解や偏見を恐れて、伝えることができない人も多く、性的少数者の人が身近にいることに気付いていない人も少なくありません。

(※)三重県男女共同参画センター、日高庸晴 宝塚大教授による共同研究 高校生一万
人アンケート(2017)、電通ダイバーシティラボ(2018)、大阪市民の働き方と暮らし
の多様性と共生に関するアンケート(2019)

大事なことは・・・

性的少数者の人が身近にいることを知って、理解することです。そして、それぞれの人にとっての「自然」や「当たり前」をお互いに認め、尊重し合うことが大切です。

性を構成する4つの要素



レインボーガイドブック

性の多様性について学べるガイドブックです。基礎知識や性的少数者の人への配慮事項などを記載しています。



詳しくは ▶ [福岡県 レインボーガイドブック](#)

検索



リアルな声を聴いてみました！

性的少数者のカップルもパートナーとして歩めたら

私は女性として生まれましたが、心は男性で、女性のパートナーがいます。私はその人と結婚したかったので、性別適合手術を受けて戸籍上の性別を男性に変えました。このことで預金や家といった資産の相続人を妻にすることができましたが、同性同士では難しいこともあります。また、手術を受けてまで性別を変えたくないと思っている人もいます。宣誓制度のスタートが、性的少数者のカップルもパートナーとして歩んでいけるきっかけになることを願っています。



濱田さん

「こういう人もいるよ」と柔らかく伝わる世の中に

私は男性として生まれましたが、女性らしく生きたいという葛藤に苦しみ、2年前から家族の気持ちも考えながら、少しずつ自分に正直に生き始めました。家族は理解と葛藤が半々のようですが、私自身がありのまま過ごし、明るくなったことで少しずつ受け入れてってくれています。「多様性」という言葉を嫌う人もいますが、押しつけではなく歩み寄りを大切に思う思いを知ってもらうことで、「こういう人もいるんだな」と柔らかく伝わる世の中になるといいなと思います。



ゆうさん

普通に「パートナーです!」と胸を張って言えるように

私のセクシャリティはゲイで、長年連れ添っているパートナーと一緒に暮らしています。ある日、パートナーと一緒に病院に行った時、聞きにくそうに互いの関係性を聞かれ、違和感を感じたことがありました。こんな時、普通に「パートナーです!」と胸を張って言えるような世の中になればいいなと思います。福岡県の取り組みが、住宅や保険、病院など多くの民間企業で「性の多様性」について考えるきっかけになることを期待しています。



マサハルさん